

記 録

岡山県におけるノドアカツグミ（スズメ目，ツグミ科）の記録

矢掛町 池田 武彦

Record of *Turdus ruficollis ruficollis* (Pallas, 1766) in Okayama Prefecture

Takehiko IKEDA, Yakage-cho

キーワード：ノドアカツグミ，岡山県.

はじめに

種ノドグロツグミ *Turdus ruficollis* (Pallas, 1766) は，基亜種ノドアカツグミ *T.r.ruficollis* (Pallas, 1766) と亜種ノドグロツグミ *T.r.atrogularis* Jarocki, 1819の2亜種が知られているスズメ目ツグミ科の鳥類である。最近では双方を別種として扱うことが多くなっているという（渡辺ほか，2011）。基亜種ノドアカツグミは，日本では北海道，飛鳥，本州，舩倉島，南西諸島などで記録がある（真木ほか，2000）。

県内で記録に値するノドアカツグミの確認情報があるかどうかは定かではないが，岡山県野生生物目録2009（岡山県生活環境部自然環境課，2009）では記載はなく，記録が極めて少ないことは確実であると思われる。今回，筆者は岡山県南西部において本亜種の記録を得ることができたので，その概要を報告することとした。

確認概要

2011年2月13日11時ごろ，岡山県小田郡矢掛町浅海地内において，本亜種と思われる個体を発見した。10倍の双眼鏡で観察後，500mmの望遠レンズを装着したデジタル一眼レフカメラで本件個体を撮影した（写真1～3）。

観察した環境は，高梁川水系の支流小田川の土手上にある低茎草地の地上であり，発見時は地上をはね歩いて採餌していた。

形態の記述と種を判断した基準

本件個体の体の大きさは，付近にいた種ツグミ *Turdus naumanni* Temminck, 1820の亜種ツグミ *T.n.eunomus* Temminck, 1831とほぼ同大で，嘴及び体の輪郭も似通っており，大型のツグミ類であることは容易に判断できた。ただし，体色はツグミとは明らかに異なっており，喉から胸にかけて鮮やかな橙赤色であった。その特徴を有する大型ツグミ類は，国内で記録のあるツグミ類の中ではノドアカツグミの雄もしくはツグミの基亜種ハチジョウツグミ *T.n.naumanni* Temminck, 1820のいずれかに絞られる。ハチジョウツグミは，喉から胸にかけての赤地には常にくさび状または長円形の赤褐色斑があるとされる（森岡，1999）。また，上面は灰色を帯びた褐色で，下尾筒に赤褐色の斑があるとされる（真木ほか，2000）。本件個体は，喉から胸にかけての赤地に斑は認められず一様であり，加えて上面が灰色であること，腹からから下尾筒にかけて白いことから，ノドアカツグミの雄と同定した。

まとめ

渡辺ほか（2011）によると，本件個体発見地より50km内外の場所と思われる広島県福山市南部の低山において1月29日から2月8日の間にノドアカツグミの雄が確認されたことが報告されている。ただし，本件個体と同一かは不明である。いずれにしても，本亜種は日本国内で観察されるこ

とは稀であったが、ここ数年毎年のように記録されるようになってきているという。今後、本亜種の渡来数が増えれば、生態系へ何らかの影響が生じる可能性もあり、注意深く観察していく必要がある。また、今回の報告が岡山県の鳥類相の解明に寄与し、鳥類の保全を考えていく助力となれば幸いである。

謝 辞

本稿をまとめるにあたり、文章の校正をさせていただいていた矢掛町在住の江木寿男氏にお礼申しあげる。

引用文献

- 真木広造・大西敏一，2000. 日本の野鳥590. 655pp. 平凡社，東京.
- 森岡照明，1999. 新しい識別の試み21 ノドアカツグミとハチジョウツグミ. BIRDER 1994年1月号：62-65.
- 岡山県生活環境部自然環境課，2009. 岡山県野生生物目録2009. 379pp. 岡山県生活環境部自然環境課，岡山.
- 渡辺健三・渡辺貴美恵，2011. 広島県におけるノドアカツグミ *Turdus ruficollis ruficollis* の記録. 比婆科学 (238)：27-30.



写真1. ノドアカツグミ（真横より，2011年2月13日）

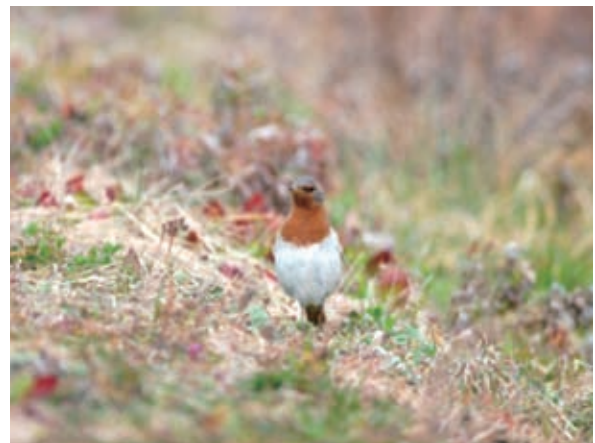


写真2. ノドアカツグミ（前面より，2011年2月13日）



写真3. ノドアカツグミ（背後より，2011年2月13日）